

# 景観開花。2016 企画書

2016.07.29

[1] 2016.10.12 変更

[2] 2016.10.20 修正

景観開花。実行委員会

## Ⅲ 1. 主旨 Ⅲ

『景観開花。』は、土木デザインに関心のある若者へその力を試せる場を提供するとともに、多くの人々へ向けて土木デザインの可能性を示すための設計競技イベントである。

高度経済成長期の日本では早急な社会基盤整備が求められ、特定の機能を果たすためだけの画一的な土木施設が多く生み出された。しかし一定の社会基盤が整うにつれ、その場所が持つ意味や役割に合い、風景に調和した土木デザインを求める機運が高まりつつある。そういった土木デザインが美しい景観を実現するものと信じ、『景観開花。』は誕生した。

そして『景観開花。』は本年度で13回を数える。土木デザインの隆盛による国土景観の「開花」を願い誕生してから年を経るにつれ、少子高齢化に代表される社会情勢の変化はいつそう顕在化し、我々は生活のあり方そのものの再考に直面している。土木施設はその役目を全うする長い期間にわたって、常に人の生活と密接に関わる。したがっていま、土木のあり方もまた問い直されているといえるだろう。それを踏まえ、近年は土木と生活の接点として「まち」に重点を置いた設計競技を実施してきた。

今年度の『景観開花。』もこれを継承し、「まち」の理想に対する土木のあり方を問う。応募者には生活と土木の接点「まち」の理想の未来像について各自の思いを巡らせ、それを実現する土木デザインの提案を求める。世代を越えて存在し続ける土木をつくる視点から、美しい景観と新たな生活を統合するデザインの提案が生まれることを期待している。

## Ⅲ 2. 設計競技募集要項 Ⅲ

### 2.1 テーマ

「相互作用」

まちにある土木施設は単体では成立しておらず、周囲の土木施設と連携して機能を果たす。ひとつの土木施設についても、ハードのあり方はソフトのあり方に関わるし、ソフトが変わればハードもそれに合わせてかたちを変える。

さらに、その土木施設の設計者と利用者も、互いの考えに影響を及ぼし合う。

このように、さまざまなスケールで見出される「相互作用」に着目し、理想の「まち」を実現する土木施設を提案せよ。

### 2.2 評価の観点

- 時代を踏まえた新たな「まち」の理想像の広がり
- 「まち」の理想像に対する、土木施設を含む提案の具体性と現実性
- 提案がもたらす体験の豊かさと美しさ

これらを総合的に評価する。

### 2.3 設計条件

- 土木構造物または土木施設を中心とした提案であること。
- 実在する敷地を対象として明示すること。
- 地質調査や構造計算は求めないが、構造の現実性は確保すること。

### 2.4 対象者

- 2016年4月1日現在、大学・大学院・短期大学・高等専門学校・専門学校・高等学校に籍をおく学生、もしくは経験年数5年以下の社会人であること。

- 上記条件を満たす人物によるグループでの応募も可とする。
- 仙台で行われる公開最終審査会に参加できること。一次審査にて入選作品に選ばれた時点で参加を確約できない場合、入選を取り消し次点を繰り上げる。

## 2.5 提出物

以下のうち、一次審査においてはパネル及びパネルデータの提出は必須、模型および模型写真の提出は任意とする。また、最終審査においては模型および模型写真の提出も必須とする。それぞれの審査会ごとの提出物締切日までに提出必須のものをすべて提出したもののみ、審査対象とする。

- パネル  
提案の意図を表現する図面および説明文を記載したもの。A1サイズのケント紙、またはそれに準ずる厚紙の片面1枚に収めること。
- パネルデータ  
パネルをPDF形式としたデータ。CD等のデータ媒体に書き込みパネルに同封するか、Webサービスを介したメールによる送信を受理する。メールに直接添付しないこと。
- 模型  
提案の意図をよく表現する縮尺により作成したもの。個数は問わないが、展示に要する空間は一辺が1mの立方体に収まること。なお、一次審査にて模型を提出する場合は必ず模型写真も一次審査の段階で提出すること。
- 模型写真  
模型の意図をよく伝える構図で撮影した、JPEG形式の写真データ。1枚以上9枚以下とする。送信方法はパネルデータと同様で、パネルデータを書き込むCD等の媒体に同封してもよい。

すべての提出物の表面には氏名や所属先を明記してはならない。パネルおよび模型には、エントリー受付完了メールの指示に従い、裏面に提出者の情報を付けること。

## 2.6 その他

- 応募作品は未発表のものに限る。
- 応募作品は1エントリーにつき、1作品に限る。
- エントリーは1人につき、1エントリーに限る。
- 応募作品の著作権は、応募者に帰属する。
- 主催者および実行委員会は、本企画の主旨の範囲内で、著作権者名を明示のうえで、報告書、記者発表資料、作品集、Web等を通じて、応募作品および提案されたアイデア、情報等を公表できるものとする。
- 提出物の返却は原則として、別途指定の期間に事務局まで直接引き取りに来られる場合のみ受け付ける。
- 課題に対する質問は受け付けない。規定外の問題は応募者の自由決定とする。

## Ⅲ 3. 設計競技審査 Ⅲ

### 3.1 審査方法

一次審査会により、入賞作品を5点前後決定する。また後日、最終審査会を公開で行い、入賞者は作品のプレゼンテーションと質疑応答を行う。審査員はこれらにより最優秀賞と優秀賞を決定し、それ以外の入賞作品を佳作とする。

### 3.2 審査員

審査員長 篠原 修

審査員 五十嵐 太郎

木下 齊

西村 浩

長谷川 浩己

(敬称略・五十音順)

### 3.3 賞金等

- 賞金 | 最優秀賞 20万円×1点  
優秀賞 10万円×1点  
佳作 4万円×数点  
特別賞 2万円×数点
- 参加賞 | 審査員からのコメント（全作品）

### 3.4 会場

- 一次審査会 | 東北大学 人間・環境系教育研究棟  
最終審査会 | 東北大学 人間・環境系教育研究棟

### 3.5 日程

#### [1]エントリー締切、一次審査提出物締切 変更

- エントリー開始 | 2016年 7月29日（金）  
エントリー締切 | 2016年~~10月14日（金）~~10月21日（金）  
一次審査提出物締切 | 2016年~~10月31日（月）~~11月4日（金）  
一次審査会 | 2016年11月9日（水）  
最終審査提出物締切 | 2016年12月5日（月）  
最終審査会 | 2016年12月17日（土）

### 3.6 作品提出

#### [2]必着→消印有効へ訂正

宛先 | 〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-06  
東北大学工学研究科・工学部 人間・環境系事務室 気付  
201 土木演習室 A 景観開花。実行委員会宛

- 作品提出は郵送、宅配便または直接持参による締切日必着**消印有効**とし、作品の提出にかかる費用はすべて応募者の負担とする。

- 郵送または各社宅配便を利用の場合、配達時間を平日9時から15時までの間に指定すること。直接持参の場合、必ず到着予定時刻を予め実行委員会に連絡しておくこと。
- 直接持参の場合も含め、梱包は提出物が損傷しないよう厳重に行うこと。
- 模型を分割して送付する場合、必ず組み立て方を明記すること。
- すべての提出物には別途指定フォーマットのラベルを印刷し、必要事項を記入のうえ、梱包に貼り付けること。
- 入賞作品については、仙台への往復にかかる交通費を1作品につき1名分、実行委員会が負担する。